

人も絶滅する！

松名瀬干潟に住むいきもの多くの多くが日本の絶滅危惧種や準絶滅危惧種に選定されています。

日本各地で個体数が極端に減少し、絶滅のおそれがある動植物が、絶滅危惧種とされてはいますが、ここ松名瀬干潟にはこれらのいきものが生きていける環境があるのです。現在も数多く生息しているのです。いきものだけを守ることは不可能です。いきものを守るためには、いきものが住む環境を守る必要があります。それは松名瀬干潟の今の環境を保全することを意味します。このことは、人間を含む全てのいきものに共通して言えることです。

いきものが環境の変化に敏感に反応して絶滅してしまうことを、人も同じいきもの

目線で考えなければなりません。文化や科学がどれほど発達しても、今の環境破壊に歯止めをかけなければ、人もまた同じように滅んでいくでしょう。

松名瀬干潟の調査を通して、環境の変化がいきものにどのように影響しているのか、そのことが私たちの生活にどのように影響を及ぼすのか、多くの人たちに知って考えてほしいと松名瀬干潟から発信しています。

未知の世界へ

小西先生が教員になった頃、生徒たちが考えることなくすぐに答えを知りたがることに驚いたそうです。

理科の実験は好きだけれど、考えることができない、考察ができないといった生徒が多かったそうです。これは過程や思考よりも多くの知識を詰め込まなければならない今時の受験制度の弊害なのでしょうか。

小西先生は、三重中学校・高等学校の教育の中に自由研究や、体験活動を多く取り入れ、生徒たちの価値観を変えてきました。「自分や仲間たちと工夫し考え、答えを導き出すことは、中学生・高校生が生涯に渡り、使える宝物となるのです。」

現在取り組んでいる干潟の調査は、まだ確立されていない未知の分野が多く、先人のまねをしたり、応用したりすることで横断していく必要がある世界です。どうしても自分たちで試行錯誤を繰り返して、答えのないことを考えなければならぬ活動になります。

「今は答えがわからなくても、追求してその答えを見つけ出してほしい！」
「誰も知らないことを、知る経験をしてほしい！」

この学校内外での活動から、物事を自分事として捉えて、しっかりと自分の意思を持って、主体的に行動できる人に育ってほしい。好奇心、冒険心、研究心、探究心のあふれる人になってほしい。

小西先生は、三重中学校・高等学校の生徒たちに、期待を込めてエールを送ります。

私たちが、この地球上で将来に渡って豊かに生きていくためには、どうしても解決していかなければならぬ問題が山積みです。その問題がなにかに気づき、どうすれば解決に至るのか、そのために自分には何ができるのかを考え、自主的に行動することが求められます。この一見地道な行動が持続可能な社会を実現させるのです。

写真提供 小西伴尚 教諭

波よ来〜い！



①「ハクセンシオマネキ」絶滅危惧種の中でも特に保護する必要のある種として、三重県指定希少野生動植物種に指定された。(平成16年)

②夏の陽射しを受けてきびしい調査。それでもしばらくすると誰からともなく歌声がきこえてくる。

三重県環境学習情報センター主催 環境講座

地元の松名瀬干潟を知ってほしくて ～生徒が紹介します～ (仮称)

日時 平成30年 3月18日(日)

講師 三重中学校・三重高等学校 科学技術部

内容 ・干潟の概要説明
・アサリの浄化実験
・瀬干潟での生物採集、自分たちの調査研究から分かったこと
・ビーチコーミング 他

詳細は決まり次第、センターホームページでご紹介します！